

その-5 アジサイ栽培の夏場対策について

ここ数年の夏の暑さは異常ともいいくべき酷暑以上の”激暑??”と表現できそうですね。とにかく、暑いです。アジサイの仲間では伊豆半島を中心とした海岸に自生するガクアジサイを除いてはもともとヤマアジサイ、エゾアジサイは標高の高い場所や雪の多い地域に自生している植物ですから夏の暑さにさらすことは大きなダメージを与え次の年の開花にも影響することになります。

下に載せた写真の左側は葉先を強い日差しで日焼けさせてしまった葉です。右側の健康な葉と比較すれば一目瞭然です。日焼けによって葉の全体が黄色～白っぽくなり全体的に硬くなっています。明らかに葉焼けの現象でこうなったらこの葉は元には戻りません。



最近は5月上旬、初夏の季節だからとうっかり油断していると連休中の暑さ到来で日なたに出していたアジサイの鉢が葉焼けを起こすことがありました。冬から春にかけてはしっかりと日に当てることはアジサイに限らず殆どの植物で大切なことですが、気温の一気の上昇は避ける必要があります。人間がそうであるように「毎年の気温上昇は徐々に体を慣らしながら生活しましょう」と全く一緒ですね。

具体的にアジサイの暑さ対策として次の方法が考えられます。

1. ヨシズを使って立てかける



左の写真は180センチ幅のヨシズを2枚つなげて鉢の棚に斜めに立てかけただけの最も簡単な日よけになります。作業というほどの手間も必要ありませんし、曇っている時、水やりのときはパタパタと折り返す程度で済みますし、軽いので台風の時は事前に外せます。

このヨシズをアジサイの日よけとして使っている方は多く見かけられます。

欠点としては毎日広げたり、たたんだりするために傷みやすく3年も使うと痛んでくるようです。

2. パイプで枠を組み、ヨシズ、スダレ、市販の遮光ネットなどを使って上部を覆う

この方法がアジサイに限らず他の植物の日よけとしても使われている方法です。次のページに写真を載せましたがアジサイの場合トレイのまま全てが覆えるように高さと幅を考えながら枠を

組みます。私は覆いに今はヨシズを使っていますが、これまで遮光ネットや断熱シートなど使ってきました。その中でヨシズは材質の断熱効果と内部が空洞のためか成績は良いです。



この方法で大切なことは鉢が入っているトレイから遮光ネットやヨシズまでの距離（高さ）が低い場合は水やりや手入れが不便であり、さらに風通しが悪く内部に熱がこもるため、かえってアジサイのために不向きになります。

最低でも鉢から天井部分まで150センチ～180センチの高さはほしいところです。

余談ですが、黒色の遮光ネットはホームセンター、園芸店で販売されていますが開穴率の高い遮光ネットは光を多くさえぎる分、この高さは必要です。今後は光を反射する銀色や開穴率50%程度の遮光ネットも検討課題です。

3. スダレを使った遮光



スダレは簡単に手に入りますしサイズも多く遮光、断熱に使いやすく長年使用しています。

ヨシズと同じく3年ほど使用するとほつれて使えなくなるのが難点ですが横面からの西日を防ぐのには簡単な材質で比較的低価格なのでお勧めです。さらにスダレは台風などのときには巻き上げておけるので便利です。

このスダレの前面にプランターを置き、トマトやキュウリなどの野菜、ゴーヤや朝顔などのつる性の植物を栽培することでさらに遮光、断熱の効果は期待できます。右の写真はトマトをスダレの前面で栽培している様子ですが植物の葉の殆どは水分ですから熱は吸収しているようです。

4. 木（樹木）の下やつる性の「緑のカーテン」で光や熱をさえぎる



桃や梅の木は夏になれば大きく枝を広げ日陰を作ってくれます。この下にアジサイの入ったトレイを置けばそれだけで日差し暑さ対策は防ぐことが出来ます。大きな木（樹木）であればなお更です。鎌倉アジサイ同好会の方も庭の桜の大木の周りにたくさんアジサイを置いて夏を越していますが良い環境です。また鎌倉のお寺のアジサイも遮光ネット無しに樹木の下で充分な夏越しを行っています。

最近は快適な夏を過ごすために窓越しに「緑のカーテン」としてゴーヤや朝顔、ヘチマ、ヒヨウタン? などがブームとなっていますが、試してみると確かに部屋の中の温度は下がります。大きな葉がたくさんの水分でその熱を吸収してくれて、さらに葉と葉に適当な間隔があるために風通しは良いのです。アジサイのトレイの周りに緑のカーテンを作れば日よけ、断熱とともにゴーヤならばほとんど虫もつかず食材の確保? と一石二鳥でしょうね。

5. 西日はさえぎる



アジサイ、特にヤマアジサイの開花した状態を求めて山道を歩くと日がまったく射さない薄暗い場所や西日が射す場所にはアジサイ以外の植物も含めて殆ど花を咲かせていません。

人間が不快なように植物も西日は苦手です。写真は私の北側に置かれたアジサイの棚ですが、朝日は1時間程度手仕込み、その後西日が夕方当たるために黒の断熱シート(90%寒冷紗)を張って西日を防いでいます。

この他にも夏場の日よけ、断熱のための方法はいろいろと工夫すれば簡単な方法は考えられると思います。夏場、植物をどのようなところ（環境）に置けば良いか考える場合、例えばヤマアジサイやエゾアジサイの場合は今頃自生地ではどのような環境で育っているのかを思い起こして考えれば良いのです。一日でせいぜい朝日から2、3時間日が当たり後は日陰になる木の下で咲いているヤマアジサイが多いでしょう。そのため日の射さない森の中よりも朝日がしっかり届く林道に沿って咲く姿を多く見かけてとても参考になりました。

皆さんも野山で植物を観察するときには、その植物がどのような場所に育って咲いているのか、例えば標高は、平らか、斜面なのか、土は乾燥しているか湿っているか、樹木の下か道際かなどその植物が育っている環境を考えることは栽培する上でとても大切なことだと思います。

余談ですが、毎年アジサイの講習会でヤマアジサイの肥料はどうすればというご質問を受けます。お聞きするとたくさん大体は肥料を与えすぎている方が多く「山奥まで毎年肥料をやりに行く人はいないでしょう」と答えます。アジサイを枯らしてしまうのですがという方がいらっしゃいますが、「自分たちが毎日水を飲むようにヤマアジサイにも毎朝一杯の水を与えて下さい」と説明しています。



岐阜県 岩村城址の自生ヤマアジサイ



北海道 ピアシリ山の林道に咲くエゾアジサイ

(鎌倉アジサイ同好会 中村氏撮影)



鹿児島県 鹿児島市
屋久島アジサイ自生状況



長野健高山村 奥山田牧場のエゾアジサイ